８．クルーズ船の受入環境整備を通じた地域の活性化について

クルーズ船の受入環境整備を通じた地域の活性化について

国土交通省　港湾局

令和2年11月

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

1. クルーズの概要

クルーズ旅行とは・・・

国土交通省

○移動中は船内で食事やアクティビティを、寄港地では寄港地観光を楽しむ。（基本的なサービスは料金に含まれている。アルコール類や寄港地におけるオプショナルツアーなどは別料金。）
○大型クルーズ船は、船内に客室、レストラン、シアターの他、医務室や、託児所、ショッピングアーケードなども備えており、街ごと移動するような感覚。
⇒ 若者から高齢者まで、家族連れにも適した旅行スタイル

客室

レストラン

スパ

プール

ブティック

シアター

託児所

医務室

※出典：各船社HPより

2

クルーズ産業の発展

国土交通省

海外におけるクルーズの発展

19世紀頃　貨物輸送としての役割が主だった船が、移住者の出現によって多くの人間を運ぶ「客船」としての役割を持つようになる。

1920年台　第一次世界大戦後に欧州で起きた外国旅行ブームの中、有産階級を対象としたレジャーとリゾートライフを楽しむ専用の客船がノルウェーで開発される。

1970年台　カーニバル・クルーズ・ライン（CCL）やロイヤル・カリビアン・インターナショナル（RCI）がカリブ海を周遊する定点クルーズを開始。
この頃から、定点・定期運航、大型化による低料金の追求され、新しいタイプのクルーズが浸透し始める。さらに、フライ＆クルーズとして旅客機との連携も始まる。

1990年頃　CCL, RCIが大型客船の新造を加速。全米の航空路線をフル活用した集客の効率化とマーケットの拡大を一気に推し進めた。

日本におけるクルーズの発展

1990年頃　「飛鳥」（90年）、「にっぽん丸」（89年）等が本格的な外航クルーズ客船として就航。

2008年　コスタクルーズが中国市場に参入。これを皮切りに、中国の巨大マーケットを目指してRCIやプリンセスクルーズが次々に中国市場に参入し、日本への寄港を開始。

2013年　プリンセスクルーズが外国船社として初めて本格的に日本発着クルーズを開始。
日本発着クルーズは現在も増加傾向にあり、様々な船社が実施している。

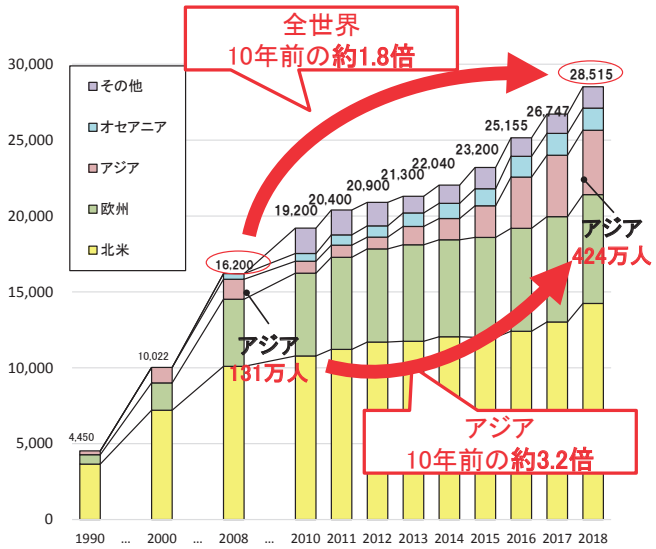
3

世界のクルーズ人口の推移とマーケットの構造

国土交通省

○世界のクルーズ人口は2,852万人（2018年）で、10年前の約1.8倍と、急速に増加。
○中でもアジアのクルーズ人口は424万人（2018年）で、10年前の約3.2倍と、特に大きな伸びを示している。また、将来的にも更なる増加が見込まれている。
○クルーズは、価格やサービスによってラグジュアリー、プレミアム、カジュアルなどのタイプがあり、カジュアルクラスがマーケット全体の約8割を占めている。

世界のクルーズ人口の推移



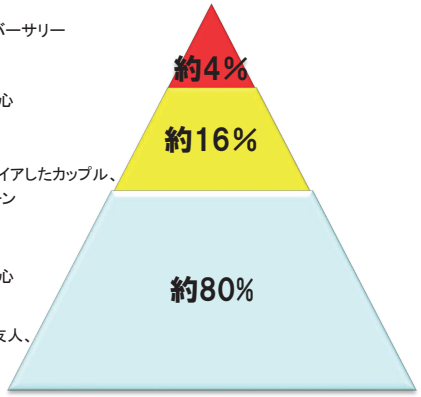
出典：CLIA資料より港湾局作成。
＊2011年以前のアジア数値はCLIAによる推定値。

世界のクルーズ市場のイメージ

ラグジュアリー（ブティック※・探検船等含む）
10泊以上のクルーズ中心
1泊：＄400～
年齢層：50代以上、
タイプ：リタイア、アニバーサリー

プレミアム
7泊以上のクルーズ中心
1泊：＄200～
年齢層：30代以上
タイプ：熟年以上、リタイアしたカップル、友人、ハネムーン

カジュアル
3～7泊のクルーズ中心
1泊：＄70～
年齢層：20代以上、
タイプ：現役～熟年、友人、ファミリー



※小型の豪華客船によるクルーズ。料金は1泊あたり600米ドル以上。
出典：クルーズ教本（2019年版）（JOPA）より港湾局作成

4

クルーズ船の船型

国土交通省

船名	船型、同縮尺イメージ			船幅	乗客定員
飛鳥Ⅱ （邦船最大のｸﾙｰｽﾞ船） 初就航:1990年	総トン数 50,142トン 必要岸壁水深 9m程度	マスト高 45m 満載喫水 7.8m	 全長240.96m	29.6m	872人
Explorer Dream （'19年より日本発着ｸﾙｰｽﾞに配船） 初就航:2019年	総トン数 75,338トン 必要岸壁水深 9m程度	マスト高 49.5m 満載喫水 7.9m	 全長268.6m	32.2m	1,856人 (2,700)
Diamond Princess （'14年より日本発着ｸﾙｰｽﾞに配船） 初就航:2004年	総トン数 115,906トン 必要岸壁水深 10m程度	マスト高 54m 満載喫水 8.55m	 全長290m	37.5m	2,706人 (3,247)
MSC Splendida （'18より日本に寄港） 初就航：2009年	総トン数 137,936トン 必要岸壁水深 10m程度	マスト高 58.1m 満載喫水 8.68m	 全長333.33m	37.92m	3,274人 (3,929)
Quantum of the Seas （日本に訪れる最大のｸﾙｰｽﾞ船） 初就航：2014年	総トン数 168,666トン 必要岸壁水深 10m程度	マスト高 62.5m 満載喫水 8.82m	 全長347.08m	41.4m	4,180人 (4,905)
Oasis of the Seas （世界最大級のｸﾙｰｽﾞ船） 初就航：2009年	総トン数 225,282トン 必要岸壁水深 11m程度	マスト高 65m 満載喫水 9.3m	 全長360m	47.0m	5,484人 (6,360)

※日本の主な橋梁の桁下高　レインボーブリッジ：52m　横浜ベイブリッジ：55m　関門橋：61m　明石海峡大橋、女神大橋（長崎）：65m
※ぱしふぃっくびぃなす:総ﾄﾝ数26,594ﾄﾝ、全長183.4m、喫水6.5m、乗客定員460人/にっぽん丸:総ﾄﾝ数22,472ﾄﾝ、全長166.65m、喫水6.6m、乗客定員398人/ガンツウ:総ﾄﾝ数3,013ﾄﾝ、全長81.2m、喫水2.45m、乗客定員38人
（参考）国会議事堂　長さ（南北）206m　高さ（中央棟）65m

※乗客定員は、1室2人使用時、（ ）書は全ベッド使用時　　出典：「クルーズ客船データブック2020・2021（海事プレス社）」、船社代理店への聞き取り調査を基に国土交通省港湾局作成。

5

クルーズ船の寄港による経済効果

国土交通省

○大型クルーズ船の寄港地における経済効果は、寄港地の特性等により違いがあるものの、乗客1人1寄港当たり数万円から十数万円に及ぶ。

経済波及効果

直接効果
クルーズ客により寄港地及びその周辺に観光消費が発生（例：飲食、土産品購入、ツアー参加など）

1次間接効果
観光消費の発生により、原材料購入等を通じ、関連産業の生産を誘発

2次間接効果
直接・第1次波及効果の発生による雇用者所得の増加から、消費支出が増加し、関連産業の生産を誘発

【出典】
※1 北海道開発局（2014）：北海道港湾におけるクルーズ振興に伴う港湾施設整備等検討業務報告書
※2 （一財）青森地域社会研究所調べ（2018）
※3 横浜市港湾局（2012）：横浜港と地域経済～私たちの暮らしとつながる横浜港～
※4 中部地方整備局、清水港客船誘致委員会（2015）：清水港へのクルーズ船等寄港による経済効果
※5 神戸市調べ（2012）
※6 福岡市調べ（2015）
※7 長崎県調べ（2015）
※8 宮崎県調べ（2015）
※9 沖縄総合事務局（2012、2015）：外国クルーズ客船の那覇港寄港による経済効果について
※10 韓国政府資料(2013)：海洋新産業育成と雇用創出のためのクルーズ産業活性化対策
※11 大分国際観光船誘致促進協議会（2018）
※12 訪日外国人消費動向調査（2019）

国土交通省

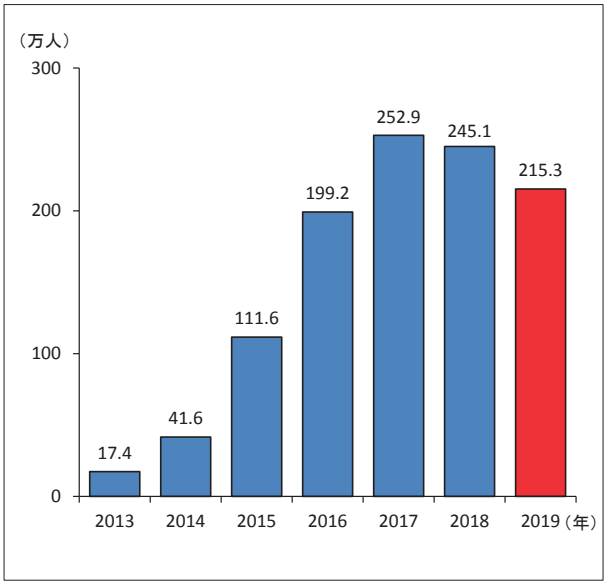
2. 我が国のクルーズの現状

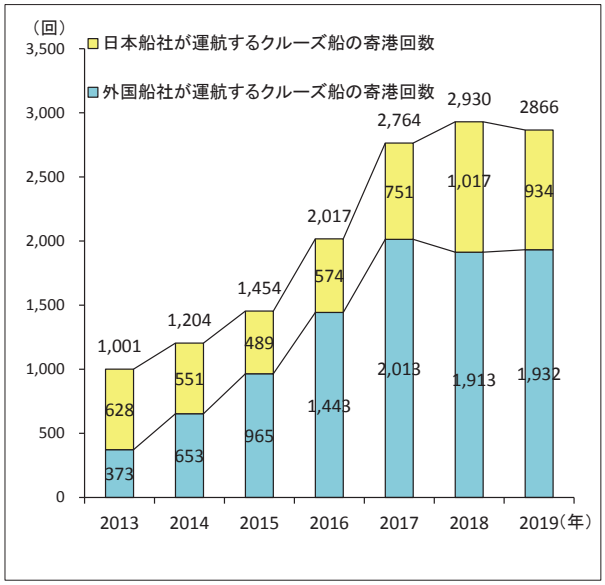
クルーズ船の寄港に関する状況

国土交通省

○ 2019年の訪日クルーズ旅客数は、前年比12.2%減の215.3万人、我が国港湾への寄港回数は前年比2.2%減の2,866回（外国船社1,932回、日本船社934回）となった。

※クルーズ：レジャーを目的とした船旅で宿泊を伴うもの





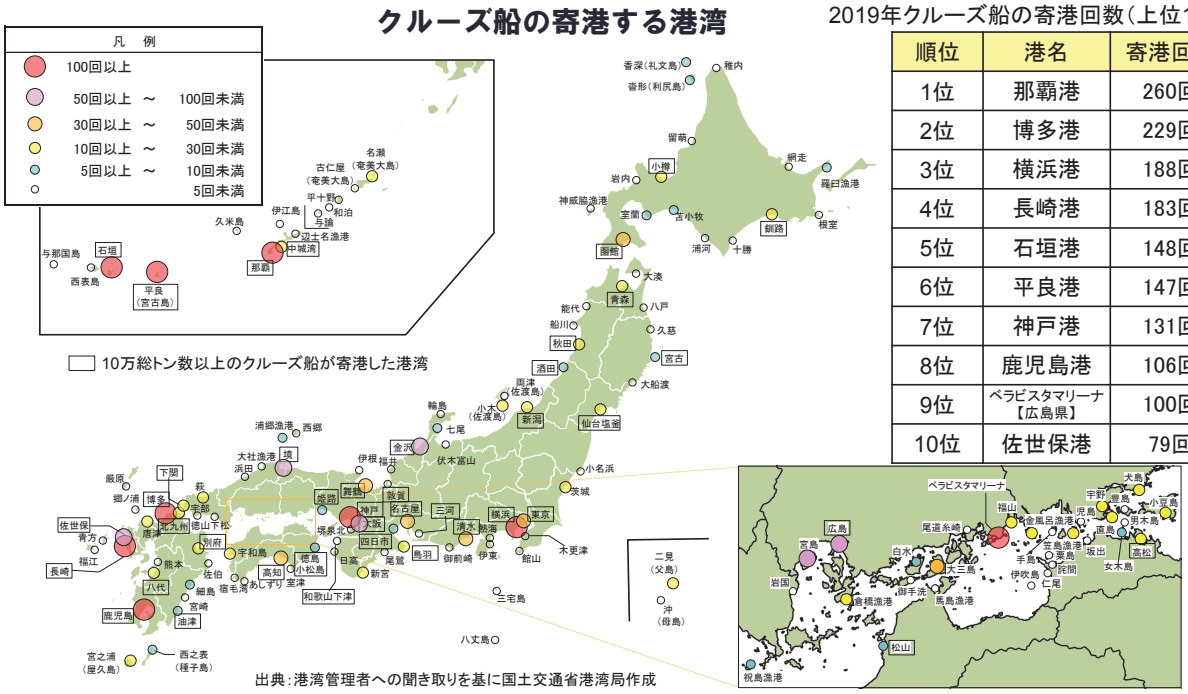
注1） 出入国在留管理庁の集計による外国人入国者数で概数（乗員除く）。
注2） 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、（各港で重複して計上するのではなく）1人の入国として計上している。

クルーズ船の寄港する港湾

国土交通省

○2019年にクルーズ船が寄港した港湾の数は全国で142港。
○うち、大型クルーズ船（10万総トン数以上）が寄港した港湾は42港。

クルーズ船の寄港する港湾



出典：港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

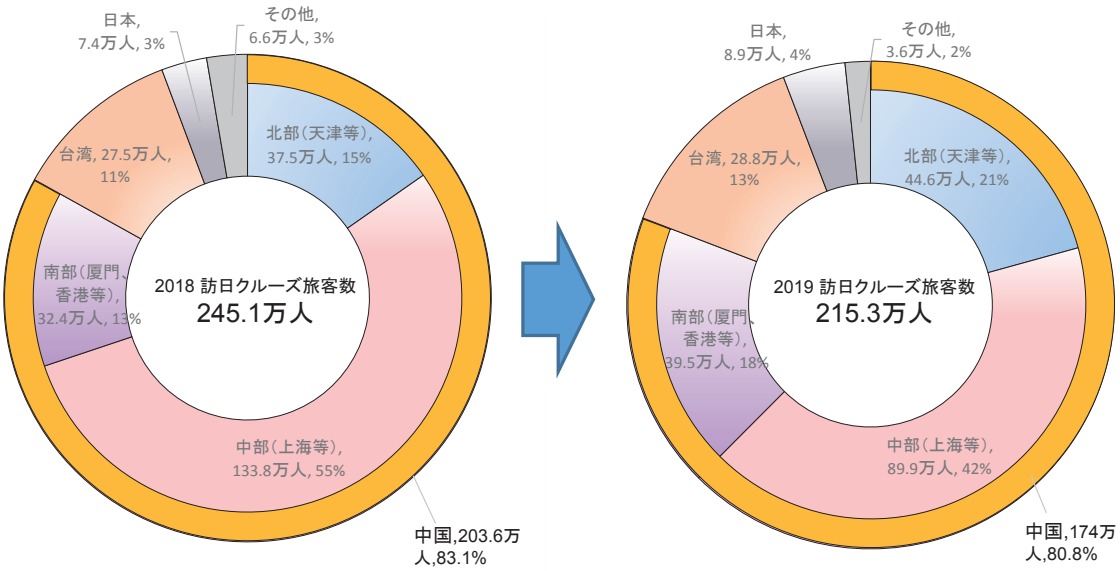
2019年クルーズ船の寄港回数（上位10港）

順位	港名	寄港回数
1位	那覇港	260回
2位	博多港	229回
3位	横浜港	188回
4位	長崎港	183回
5位	石垣港	148回
6位	平良港	147回
7位	神戸港	131回
8位	鹿児島港	106回
9位	ベラビスタマリーナ【広島県】	100回
10位	佐世保港	79回

訪日クルーズ旅客の出発国・地域別シェア

国土交通省

○2019年の訪日クルーズ旅客数は前年（245．1万人）比0．88倍の215．3万人。
○中国からのクルーズによる訪日が、29．6万人減の174万人と全体の約8割を占める。



我が国における外国船社によるクルーズの運航形態

国土交通省

○クルーズの運航形態は、主に中国発着クルーズ、日本発着クルーズ、世界一周クルーズの3通りが挙げられる。
○中国発着クルーズは、訪日クルーズ旅客の8割を占めており、中国人をターゲットにしたショートクルーズが多い。
○日本発着クルーズは、日本人クルーズ旅客や欧米系クルーズ旅客がメインターゲットとなっており、近年増加傾向にある。旅程は、10日～2週間程度のものが多い。
○世界一周クルーズは、富裕層向けのラグジュアリー船が多く、日本に寄港する際に日本発着クルーズを複数回実施する場合もある。

中国発着クルーズ

コース例
（スペクトラム・オブ・ザ・シーズ）

特徴
・旅客のほとんどが中国人。
・年間を通して日本に寄港する最大勢力。
・季節によって発着地が変わる（夏場は天津や上海など北部・中部発着が多いが、冬場は南下して香港発着等が増加）。
・1週間未満のショートクルーズが多い。

主な船社例
・ドリーム・クルーズ
・ロイヤル・カリビアン・インターナショナル
・コスタ・クルーズ
・MSCクルーズ

日本発着クルーズ

コース例
（ダイヤモンド・プリンセス）

特徴
・日本人及び欧米人がメインターゲット。
・横浜や神戸発着が多い。
・10日～2週間程度のクルーズがメイン。
・日本のクルーズベストシーズン以外の時期には基本的に行われない（ただし、横浜港を母港にするダイヤモンド・プリンセスは年間を通して実施）。

主な船社例
・プリンセス・クルーズ
・セレブリティ・クルーズ
・キュナード・ライン
・コスタ・クルーズ
・MSCクルーズ
・ポナン

世界一周クルーズ

コース例
（セブンシーズ・マリナー）

特徴
・ラグジュアリー船による運航が多い。
・日本へはいくつかの港湾にしか寄港しないケースも多いが、近年日本発着を実施するケースも増えている。
・旅客は、富裕層が多く、経済効果も期待できる。

主な船社例
・リージェント・セブンシーズ・クルーズ
・オーシャニア・クルーズ
・ホーランド・アメリカ・ライン
・シルバーシー・クルーズ

世界の各クルーズ船社の概要

国土交通省

○世界のクルーズ船の隻数は423隻、市場規模は493億ドル。
○世界のクルーズ船社のマーケットシェアは第1位がカーニバル社で42.3%、第2位はロイヤル・カリビアン・クルーズ社22.9%、第3位がMSCクルーズ社9.3%。

カーニバル・コーポレーション＆PLC

- 世界最大のクルーズ会社。傘下に9のブランド（プリンセス・クルーズ、コスタ・クルーズ等）があり、グループで世界シェアの約4割を担う。

船名：ダイヤモンド・プリンセス
総トン数：115,875トン
乗客定員：2,706人

船名：コスタ・ネオロマンチカ
総トン数：56,769トン
乗客定員：1,572人

ロイヤル・カリビアン・グループ

- 世界第2位のクルーズ会社。傘下に6のブランド（ロイヤルカリビアン・インターナショナル、セレブリティクルーズ等）があり、世界最大級の22万トン級客船を有する。

船名：クァンタム・オブ・ザ・シーズ
総トン数：168,666トン
乗客定員：4,180人

船名：オアシス・オブ・ザ・シーズ
総トン数：225,282トン
乗客定員：5,400人

MSCクルーズ

- クルーズ船社としての歴史は浅いが、業界で3位の規模を有し、特にヨーロッパ市場で高い集客力をもつクルーズ会社。

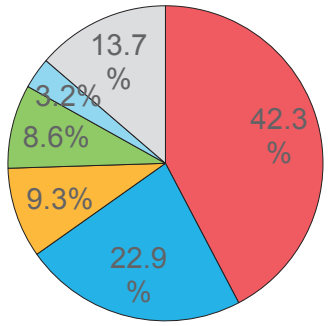
船名：MSCスプレンディダ
総トン数：137,936トン
乗客定員：3,274人

ゲンティン香港

- 傘下に3つのブランドを保有するアジア最大のクルーズ会社。

船名：ワールド・ドリーム
総トン数:150,695トン
乗客定員:3,376人

世界のクルーズ船社のマーケットシェア



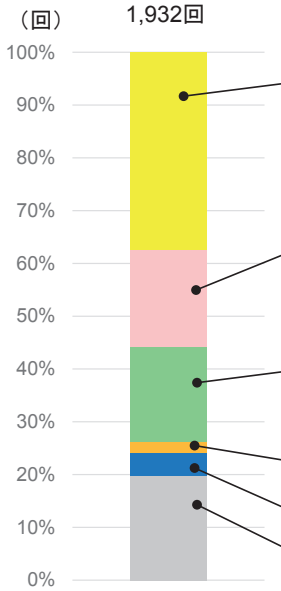
出典：Cruise Industry News Annual Report 2020

12

船社別 寄港実績（外国船社）

国土交通省

○カーニバル・グループ全体ではコスタ・クルーズの配船減少が影響して対前年比1%減、ノルウェージャン・クルーズは日本市場を一時的に撤退したため、対前年比59%減となった。
○他方、ロイヤル・カリビアン・グループ全体では、シルバーシー・クルーズやセレブリティクルーズの配線増により対前年比12%増、ゲンティン香港グループはドリーム・クルーズの配船増加を受けて対前年比3%増となった。



カーニバル・グループ（722回、37.37%）（対前年比1%減）
- コスタ・クルーズ　（389回、20.13%）
- プリンセス・クルーズ（246回、12.73%）
- ホーランド・アメリカ・ライン（59回、3.05%）
- シーボーン・クルーズ（10回、0.52%）
- キュナード・ライン（14回、0.72%）
- アイーダ・クルーズ（2回、0.10%）
- P&Oクルーズ・オーストラリア（2回、0.10%）

ロイヤル・カリビアン・グループ（358回、18.53%）（対前年比12%増）
- ロイヤル・カリビアン（182回、9.42%）
- シルバーシー・クルーズ（74回、 3.83%）
- セレブリティクルーズ（ 50回、 2.59%）
- アザマラ・クルーズ（ 52回、 2.69%）

ゲンティン香港グループ（346回、17.91%）（対前年比3%増）
- スター・クルーズ　（221回、11.44%）
- ドリーム・クルーズ　（118回、6.11%）
- クリスタル・クルーズ（7回、0.36%）

ノルウェージャン・グループ（57回、2.95%）（対前年比59%減）
- ノルウェージャン・クルーズ（26回、1.35%）
- オーシャニア・クルーズ（12回、0.62%）
- リージェント・セブンシーズ・クルーズ(19回、0.98%)

MSCクルーズ（87回、4.50%）

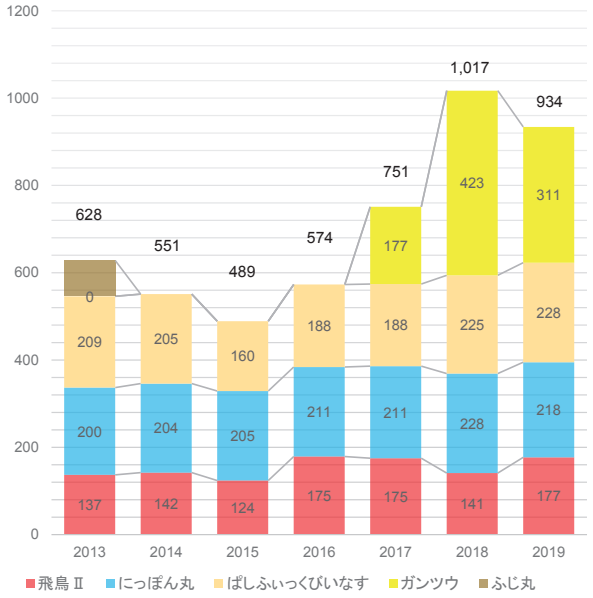
その他（362回、18.74%）

国内クルーズ船社別寄港実績

国土交通省

○2019年の我が国港湾へ寄港する日本クルーズ船社は、せとうちクルーズが約33%、日本クルーズ客船が約24%、商船三井客船が約23%、郵船クルーズが約19%を占める。

日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数の推移



※港湾管理者からの聞き取りをもとに国土交通省港湾局作成

「飛鳥Ⅱ」

総トン数：50,142トン
乗客定員：872人
全長：241m
船幅：29.6m
喫水：7.8m
運航会社：郵船クルーズ

「にっぽん丸」

総トン数：22,472トン
乗客定員：398人
全長：166.65m
船幅：24m
喫水：6.56m
運航会社：商船三井旅客

「ぱしふぃっくびいなす」

総トン数：26,594トン
乗客定員：476人
全長：183.4m
船幅：25m
喫水：6.52m
運航会社：日本クルーズ客船

「ガンツウ」

総トン数：3,200トン
乗客定員：38名
全長：81.2m
船幅：13.75m
喫水：2.4m
運航会社：せとうちクルーズ

14

国土交通省

3. わが国のクルーズ振興に向けた取組

15

クルーズ船等の受入環境の整備を通じた地域の活性化に向けた取組

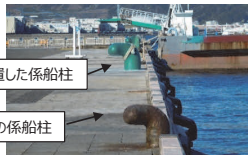
国土交通省

北東アジア海域をカリブ海のような世界的なクルーズ市場に成長させ、クルーズ船の寄港を活かした地方の創生を図るため、以下の施策を推進。

「お断りゼロ」の実現

クルーズ船の受入環境の緊急整備

《清水港》



係船柱の整備事例

乗船客の安全性・利便性の確保　ハード

《横浜港》

国際クルーズ旅客受入機能高度化事業

大型テントの設置

クルーズ船寄港地マッチングサービス　ソフト

クルーズ船社（代理店）

寄港可能な港湾を照会 →

← 寄港可能な港湾を紹介

国土交通省港湾局 クルーズワンストップ窓口

寄港可能な港湾を抽出・調整 →

← （あらかじめ）情報を集約

全国クルーズ活性化会議（全国142自治体）※2020年9月25日現在

寄港地の全国展開

商談会の開催　ソフト

・「全国クルーズ活性化会議」と連携して、クルーズ船社、自治体等が参加する商談会を開催。

寄港地情報の一元的発信

・クルーズ船社が必要とする情報をウェブサイトで一元的に発信
①港湾施設の諸元
②寄港地を起点とした観光情報

国際クルーズの拠点形成

官民連携による国際クルーズ拠点の形成　ハード　ソフト

海外におけるクルーズ船社の投資例
ファルマス港（ジャマイカ）

クルーズ船社がショッピングエリアを整備

○岸壁の優先使用を希望する民間の投資意欲を活用し、クルーズ船の受入環境として必要な旅客ターミナルビルの整備を推進

公共（国・港湾管理者）
・港湾施設の整備
・クルーズ船社に対する岸壁の優先的な使用の確保　等

組み合わせ

民間（クルーズ船社）
旅客ターミナルビルの整備への投資　等

新たなクルーズビジネスの活用

ソフト

・「全国クルーズ活性化会議」と連携して、クルーズ船社と寄港地とのパートナーシップを確立し、上質な寄港地観光プログラムの造成を促進

船社幹部によるプレゼンテーション（PCL）

16

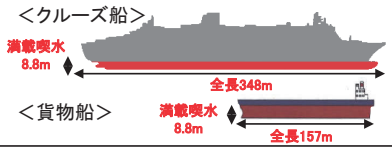
既存ストックを活用したクルーズ船の受入環境の整備

国土交通省

○短期間かつ低コストで寄港を可能とするため、既存の貨物船用バースを改良してクルーズ船に対応。

課題

クルーズ船は、同程度の喫水の貨物船に比べ、
①風圧面積が広い
→既存岸壁の防舷材や係船柱では、安全な着岸・係留は困難
②船長が長い
→延長不足によりクルーズ船を係留できない岸壁が存在



対策①

■クルーズ船用の大型の防舷材、係船柱を整備
＜八代港＞

平成26年10月　現地着手（事業費：約2億円）
平成27年　6月　供用
⇒　約16万トンのクルーズ船（アジア最大級）対応

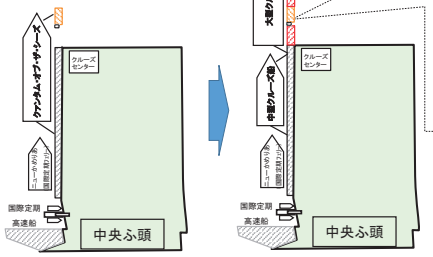
平成28年 8月　現地着手（事業費：約3億円）
平成29年 3月　供用
⇒　約16万トンのクルーズ船（アジア最大級）対応

更に増深により、平成30年4月から約22万トンのクルーズ船（世界最大級）対応

対策②

■ドルフィン・桟橋等により延長不足を解消
＜博多港＞

現地着手　平成28年7月
（事業費約40億円）



桟橋の一部
（平成29年4月から供用）

ドルフィン・桟橋
（平成30年9月から供用）

2隻同時接岸の状況
（平成30年9月4日）

平成29年度から約16万トンのクルーズ船（アジア最大級）対応

平成30年9月から約22万トンのクルーズ船（世界最大級）対応

17

国際クルーズ旅客受入機能高度化事業/施設整備事業

国土交通省

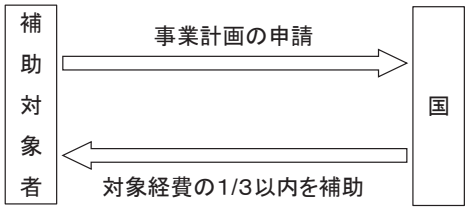
訪日クルーズ旅客数500万人の実現に向けて、クルーズ旅客の利便性や安全性の向上及び物流機能の効率化を図るための事業を実施する者（地方公共団体又は民間事業者）に対し、その経費の一部を国が補助する。

事業概要

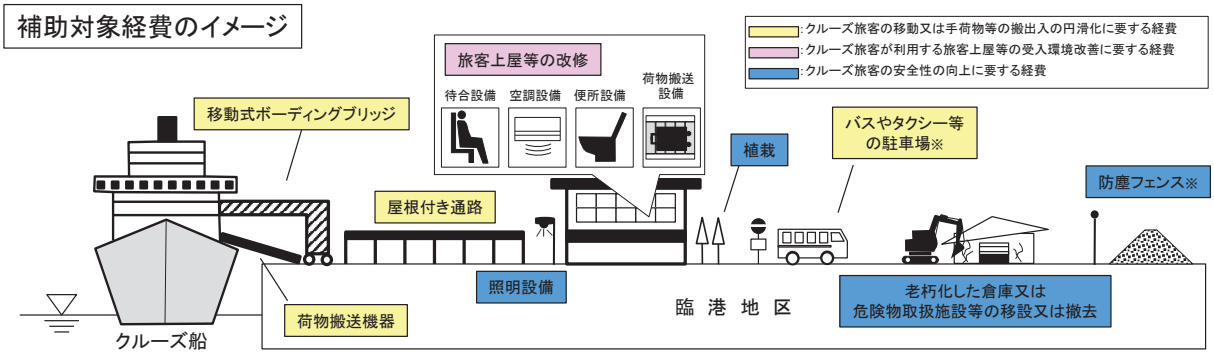
■補助対象経費
- ・クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入の円滑化に要する経費
- ・クルーズ旅客が利用する旅客上屋等の受入環境改善に要する経費
- ・クルーズ旅客の安全性の向上に要する経費　等

■補助対象者
地方公共団体（港務局を含む。）又は民間事業者

■事業スキーム



補助対象経費のイメージ



※国際クルーズ旅客受入機能高度化施設整備事業の対象事業

18

全国クルーズ活性化会議の活動

国土交通省

○全国クルーズ活性化会議は、全国レベルでクルーズ振興や誘致に係る必要な情報の共有や意見交換を行うとともに、各地域に共通する課題の解決を図ることにより、港を通じた地域振興や経済の活性化等に資することを目的として2012年に設立。

○クルーズ船の寄港促進を図るため、海外クルーズ船社と「全国クルーズ活性化会議」の会員との商談会の開催や、港湾施設に関する情報のウェブ上での一元的な発信などの活動を行っている。

○全国クルーズ活性化会議の会員（会長：横浜市長）

全国142の港湾管理者や地方自治体の首長で構成（2020年9月25日現在）

【北海道(16)】 北海道、函館市、小樽市、室蘭市、釧路市、網走市、留萌市、苫小牧港管理組合、稚内市、根室市、礼文町、利尻町、利尻富士町、広尾町、白老町、紋別市

【東　北(21)】 青森県、青森市、むつ市、鰺ヶ沢町、岩手県、宮古市、大船渡市、久慈市、釜石市、宮城県、石巻市、気仙沼市、秋田県、秋田市、能代市、男鹿市、山形県、酒田市、福島県、相馬市、新地町

【関　東(10)】 茨城県、大洗町、栃木県、千葉県、館山市、木更津市、千葉市、東京都、横浜市、川崎市

【北　陸(13)】 新潟県、新潟市、佐渡市、富山県、高岡市、射水市、石川県、金沢市、輪島市、福井県、福井市、敦賀市、坂井市

【中　部(12)】 岐阜県、静岡県、静岡市、御前崎市、焼津市、富士市、愛知県、名古屋港管理組合、蒲郡市、三重県、四日市港管理組合、豊橋市

【近　畿(14)】 京都府、舞鶴市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市、姫路市、奈良県、橿原市、和歌山県、和歌山市、新宮市、御坊市

【中　国(17)】 鳥取県、鳥取市、境港管理組合、境港市、島根県、松江市、浜田市、岡山県、玉野市、広島県、広島市、呉市、福山市、尾道市、三原市、山口県、下関市

【四　国(15)】 徳島県、小松島市、香川県、坂出市、小豆島町、愛媛県、松山市、今治市、宇和島市、新居浜港務局、高知県、宿毛市、須崎市、四万十町、四万十市

【九　州(19)】 福岡県、北九州市、福岡市、佐賀県、唐津市、伊万里市、長崎県、佐世保市、熊本県、熊本市、八代市、大分県、佐伯市、中津市、宮崎県、宮崎市、日南市、日向市、鹿児島県

【沖　縄(5)】 沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市、中部広域市町村圏事務組合

オブザーバー　国土交通省港湾局、海事局、観光庁、国土政策局、日本旅行業協会（JATA）、全国旅行業協会（ANTA）、日本外航客船協会（JOPA）、日本観光振興協会、日本政府観光局（JNTO）

※2012年11月設立時79団体

○「全国クルーズ活性化会議第8回総会」（令和元年7月19日）

全国クルーズ活性化会議は、毎年総会を開催し、国および船社への要望等を実施。

阿達政務官に要望書を手渡す林会長（横浜市長）他会員

山口日本外航客船協会副会長に要望書を手渡す林会長（横浜市長）他会員

19

クルーズの振興のためのワンストップ窓口の活用

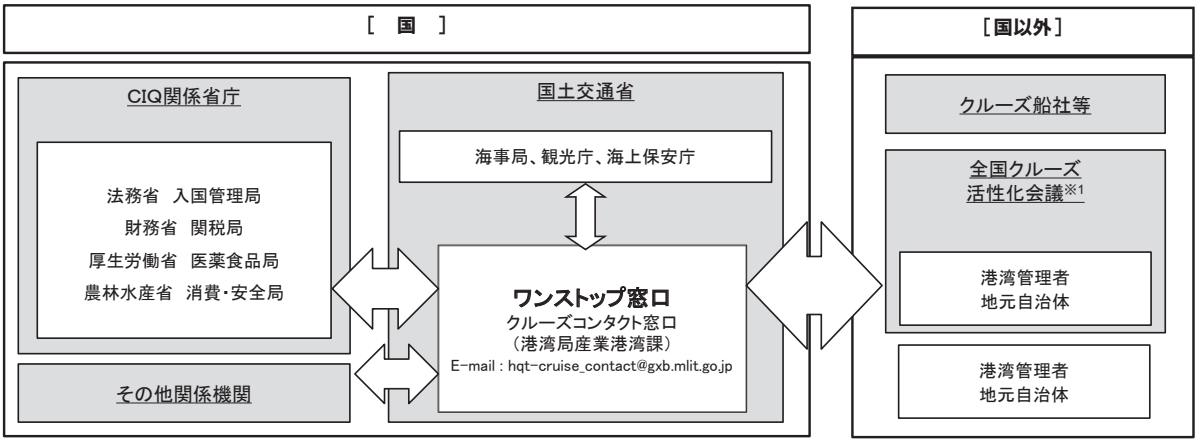
国土交通省

○外国のクルーズ船社が我が国港湾への寄港を検討するに当たり、我が国の一元的窓口がない、あるいは寄港地の情報が不足しているとの声があることから、関係者の間で連携を図り、外国クルーズ船社に対応するワンストップ窓口を2013年6月に港湾局内に開設。

○外国クルーズ船社等からの問い合わせ対応のほか、「ワンストップ窓口」の周知を行っているところ。

外国クルーズ船社に対応するワンストップ窓口

外国のクルーズ船社等からの問い合わせに対し、港湾局に設置したワンストップ窓口が関係行政機関との情報共有・連携を図り、適宜、窓口または関係行政機関から回答を行う。



※1 クルーズの振興を通じて、地域振興等に資することを目的とした団体（全国の港湾管理者等142団体が参加）

寄港地情報の一元的な発信

国土交通省

○外国クルーズ船社等が寄港地を検討する際、港湾施設の諸元や港周辺の観光情報の提供が必要となる。

○これらの情報を一元的に発信するウェブサイトを開設（2013年3月）。引き続き、同ウェブサイトの周知・充実を図り、外国クルーズ船社等に必要な情報を積極的に発信。

【全国クルーズ活性化会議ホームページ（Japan Cruise Port Association）】
港湾施設等の情報を提供するｳｪﾌﾞｻｲﾄ（2013年3月掲載）

【国土交通省ホームページ（CRUISE PORT GUIDE OF JAPAN）】
港周辺の観光情報を発信するｳｪﾌﾞｻｲﾄ（2014年3月掲載）

商談会の開催

国土交通省

○国土交通省港湾局は、外国クルーズ船の我が国港湾への寄港促進を図るため、観光庁と連携し、海外クルーズ船社等と全国の港湾管理者等が参加する「全国クルーズ活性化会議」の会員との商談会を2014年から実施中。

２０１７年度

■ 天海郵輪（中）
・日程：2017年10月11日　10月13日
・場所：敦賀市　・場所：京都市
・参加者：4港　・参加者：8港
新潟港、金沢港、伏木富山港、和歌山下津港
堺泉北港、姫路港、広島港、清水港、徳島小松島港、高知港・宿毛湾港、四日市港

■ ノルウェージャン・クルーズ（米）
・日程：2017年10月24日　10月27日
・場所：和歌山市　・場所：四日市市
・参加者：3港　・参加者：7港
金沢港、高松港、広島港
室蘭港、岩国港、清水港、横浜港、舞鶴港、徳島小松島港、伏木富山港

■ ロイヤル・カリビアン・インターナショナル（米）
・日程：2017年11月2日
・場所：敦賀市
・参加者：8港
函館港、金沢港、伏木富山港、清水港、神戸港、和歌山下津港、徳島小松島港、四日市港

■ ホーランド・アメリカ・ライン（米）
・日程：2018年1月18日　1月19日
・場所：一ノ関市　・場所：水戸市
・参加者：6港　・参加者：10港
青森港、酒田港、宮古港、仙台塩釜港、和歌山下津港、新宮港
館山港、敦賀港、福井港、金沢港、清水港、四日市港、徳島小松島港、高松港、高知港、宿毛湾港

■ ポナン（仏）
・日程：2018年2月28日　3月2日
・場所：鳥取市　・場所：徳島市
・参加者：11港　・参加者：12港
清水港、熱海港、伊東港、下田港、松崎港、土肥港、沼津港、姫路港、唐津港、熊本港、八代港
室蘭港、館山港、四日市港、舞鶴港、和歌山下津港、日高港、新宮港、浜田港、高松港、新居浜港、高知港、宿毛湾港

２０１８年度

■シルバーシー・クルーズ （モナコ）
・日程：2018年10月31日　・11月2日
・場所：秋田市　・場所：仙台市
・参加者：8港　・参加者：19港
宮古港、金沢港、神戸港、和歌山下津港、日高港、新宮港、鳥取港、徳島小松島港
室蘭港、茨城港、横浜港、敦賀港、福井港、清水港、熱海港、伊東港、下田港、松崎港、土肥港、沼津港、舞鶴港、高松港、松山港、高知港、北九州港、熊本港、八代港

■ MSCクルーズ（スイス）
・日程：2019年1月9日　・1月10日
・場所：境港市　・場所：広島市
・参加者：5港　・参加者：8港
青森港、神戸港、和歌山下津港、新宮港、名古屋港、八代港
秋田港、伏木富山港、金沢港、清水港、御前崎港、徳島小松島港、高知港、北九州港

■ クリスタルクルーズ（米）
・日程：2019年2月18日
・場所：広島市
・参加者：8港
和歌山下津港、堺泉北港、阪南港、神戸港、姫路港、徳島小松島港、三田尻中関港、下関港、北九州港

■ ポナン（仏）
・日程：2019年3月6日　・日程：2019年3月7日
・場所：鹿児島市　・場所：東京都
・参加者：9港　・参加者：22港
鳥取港、北九州港、博多港、唐津港、別府港、佐伯港、八代港、熊本港、水俣港
青森港、酒田港、茨城港、横浜港、新潟港、両津港、小木港、二見港、伏木富山港、敦賀港、福井港、和歌山下津港、日高港、新宮港、堺泉北港、阪南港、福山港、宇野港、萩港、高知港、徳島小松島港、高松港

■ ウインドスタークルーズ（米）
・日程：2019年3月13日　・日程：2019年3月15日
・場所：北九州市　・場所：別府市
・参加者：19港　・参加者：9港
秋田港、船川港、能代港、伏木富山港、敦賀港、福井港、舞鶴港、高知港、徳島小松島港、高松港、姫路港、宇野港、鳥取港、八代港、熊本港、水俣港、唐津港、博多港、下関港
横浜港、清水港、金沢港、和歌山下津港、日高港、新宮港、神戸港、福山港、尾道糸崎港

２０１９年度

■ ロイヤル・カリビアン・インターナショナル
・日程：2019年9月17日
・場所：静岡市
・参加者：2港　四日市港、名古屋港

・日程：2019年9月18日
・場所：大阪市
・参加者：12港　伏木富山港、舞鶴港、敦賀港、大阪港、神戸港、広島港、徳島小松島港、高知港、宿毛湾港、あしずり港、下関港、別府港、

■ キュナード・ライン（英）
・日程：2020年1月14日
・場所：東京都
・参加者：14港　宮古港、石巻港、酒田港、小名浜港、茨城港、木更津港、横浜港、新潟港、伏木富山港、清水港、御前崎港、神戸港、高知港、八代港

・日程：2020年1月17日
・場所：大阪市
・参加者：18港　室蘭港、秋田港、蒲郡港、名古屋港、四日市港、鳥羽港、舞鶴港、敦賀港、和歌山下津港、新宮港、大阪港、姫路港、広島港、徳島小松島港、下関港、博多港、佐世保港、鹿児島港

商談会の様子

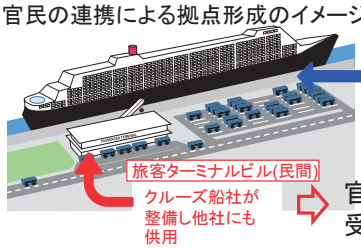
国際クルーズ拠点港湾形成のための制度概要

国土交通省

○国際クルーズ拠点として国が指定した港湾において、民間による受入施設整備を促す協定制度等を平成29年度に創設。

＜課題＞
① 急増するクルーズ船の受入施設が不足、貨物ヤードでの旅客受入も発生
② クルーズツアーは1年以上前からの販売も多いが、岸壁の優先予約の仕組みがなく、ツアー造成に支障
③ 岸壁を長期優先使用できるなら、自ら旅客ターミナルビル等を整備する意欲を持つ船社が出現

【官民の連携による拠点形成のイメージ】



官民連携による受入拠点形成

【岸壁の優先使用のイメージ】

・A社（協定船社）による予約（1年半程度前）

月	火	水	木	金	土	日
	A社		A社		A社	

・A社の予約完了後、その他の社が予約

月	火	水	木	金	土	日
B社	A社	C社	A社		A社	

【制度の概要】

国が指定した港湾において、港湾管理者とクルーズ船社との間で、以下の内容の協定を締結できる制度等を創設。
・港湾管理者はクルーズ船社に岸壁の優先的な使用を認める
・船社は旅客施設を整備し、他社の使用も認める

受入拠点の形成を図る港湾を国が指定
・岸壁の整備状況、クルーズ船社との連携の度合い、クルーズ旅客の見込み数等を総合的に勘案して、国が指定

港湾管理者がクルーズ拠点の形成計画を作成
・将来の外航クルーズ旅客の受け入れ目標、ターミナルビル等の施設の整備概要、官民の役割分担等を内容とする受入拠点形成計画を港湾管理者が作成
→計画に基づく工事の許可等の特例を措置

港湾管理者が民間事業者と協定を締結
・港湾管理者はクルーズ船社に長期の岸壁優先使用を認める
・クルーズ船社等は形成計画に沿って旅客施設を整備するとともに、自社の利用しない日には他社の使用を許容する
→クルーズ船社等の地位を引き継いだ承継者にも協定の効力が及ぶ規定を創設
→クルーズ船社等が所有する旅客施設の利用料金が著しく不適切な場合等における港湾管理者による変更命令を規定

国際クルーズ拠点の形成状況

国土交通省

○これまでに官民連携による「国際旅客船拠点形成港湾」として9港を指定。
○現在、公共による岸壁の整備等とともに、民間による旅客施設等の整備が進められているところ。

港湾名 (港湾管理者)	第1次募集分 H29.1.31 選定 H29.7.26「国際旅客船拠点形成港湾」指定						第2次募集分 H30.2.27 選定 H30.6.29 指定	第3次募集分 H31.3.1 選定 H31.4.22指定	
	横浜港（横浜市）	清水港（静岡県）	佐世保港（佐世保市）	八代港（熊本県）	本部港（沖縄県）	平良港（宮古島市）	鹿児島港（鹿児島県）	下関港（下関市）	那覇港（那覇港管理組合）
カーニバル・コーポレーション&plc	○		○			○			
ﾛｲﾔﾙ・ｶﾘﾋﾞｱﾝ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ				○			○		○
MSCクルーズ								○	○
ゲンティン香港		○			○				
郵船クルーズ	○								

※ カーニバル・コーポレーション&plc：世界シェアの約4割を担うクルーズ会社グループ。傘下に、コスタ・クルーズ社、プリンセス・クルーズ社などクルーズ・ブランドを有している。
※ ロイヤル・カリビアン・グループ：オアシス・オブ・ザ・シーズなど世界最大のクルーズ船を有するクルーズ会社グループ。
※ MSCクルーズ：ヨーロッパ市場において大きなシェアを持つクルーズ会社。近年、アジア地域にも積極的に進出している。親会社はスイスにあり、世界第2位のコンテナ海運会社。
※ ゲンティン香港：傘下に、スタークルーズ社、ドリーム・クルーズ社などのブランドを保有するアジア最大のクルーズ会社。
※ 郵船クルーズ：飛鳥Ⅱを所有する邦船社。

クルーズ船の寄港による文化交流（函館港）

国土交通省

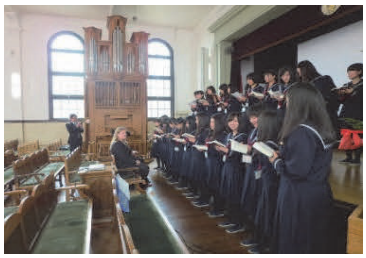
○函館港に寄港するクルーズ船は、平成30年は27回、令和元年は47回と増加中。
○函館市内の遺愛女子高等学校英語科生徒は通訳ボランティアとして受入れに関わり、観光案内や学校を開放して書道や茶道の体験メニューを提供する等、クルーズ船の市民レベルでの国際交流の推進や日本文化の発信、魅力ある地域づくりに貢献。このような取り組みが評価され、平成27年に第7回観光庁長官表彰、平成30年5月に日本港湾協会企画賞を受賞。
○市民の主体的な取り組みにより、まち全体で「おもてなし」の空気が醸成され、国際交流が進展している。

函館港歓迎セレモニーの様子

イカ踊りによるお見送り

生徒による通訳ボランティア（H19.5月～）

生徒自らの発案・企画による日本の文化体験
（H27.5月～）



外国クルーズ船社の現地視察時に
意見交換し、クルーズ船誘致にも寄与
（H28.12月 アザマラ・クラブ・クルーズ）

コロナウイルス対応で係留中の「ダイヤモンド・プリンセス」の乗客乗員に向け、応援動画を配信
（R2.2月 ）

秋田港のクルーズ船受入時の取り組み

国土交通省

○令和元年の秋田港へのクルーズ船の寄港回数は21回（外国船社13回、日本船社8回）
○平成30年4月より秋田港駅と秋田駅を結ぶ「秋田港クルーズ列車」の本格運行を開始。JR東日本秋田支社は、既存の貨物用線路を有効活用し、クルーズ乗船客専用の列車乗り入れのための停車場を設置するとともに、専用車両として「あきたクルーズ号」を投入。
○令和元年は、クルーズ船の寄港等に合わせ期間中に計18日間の運行を実施。

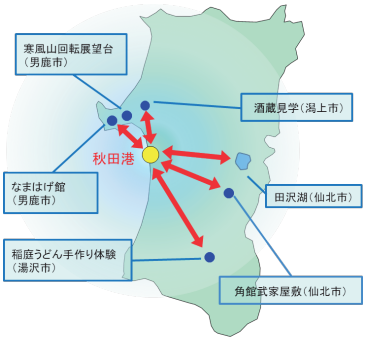
「秋田港クルーズ列車」の運行概要

・運行区間：秋田港駅～秋田駅間（約9km）
・運 行 日 ：クルーズ船入港日はほぼ運行
※運行日は、クルーズ船運航会社とJR東日本が鉄道需要をみつつ決定
・運転本数：1～12本／日
・車　　両：4両編成

【あきたクルーズ号】

秋田市内への所要時間を短縮

オプショナルツアー例



秋田港駅　位置図

停車場と待合施設　※東武トップツアーズHP情報をもとに東北地方整備局作成

【停車場 4両対応ホーム(L=90.2m)※】

【待合施設※】

※事業費のうち、一部を国際クルーズ旅客受入機能高度化事業（補助事業）にて支援

高知港におけるクルーズ船寄港への取組

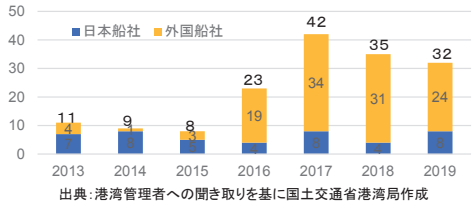
国土交通省

○ 限られた滞在時間で消費を促すため、クルーズ旅客を港から無料バスで中心市街地に送迎し、バスターミナルから観光名所である高知城に向かう道のりに商店街を巡る「ゴールデンルート」を設定。
「オセッカイスト」という市民ボランティアがきめ細かくニーズを聞き、お店の中に一歩入るところをつなぐ等の取組を行っている。
○地元デパートでは、外国人観光客のための「免税カウンター」を設置。デパートと商店街が提携し、商店街で買った商品でも、一括して免税手続きを行えるようにした結果、外国人の来客、売上は高い伸びを見せている。

平成31年3月29日にオープンした高知新港客船ターミナル

大型クルーズ寄港時のターミナル利用状況

【高知港における外航クルーズ船の寄港状況の推移】



出典：港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

熊本県におけるクルーズ船寄港に伴う経済効果

国土交通省

○平成29年6月に停泊したクァンタム・オブ・ザ・シーズに、船内のレストランで提供するための日本酒３銘柄（24本）、焼酎２銘柄（12本）、醤油１銘柄（12本）を納入した。
○同年9月には八代市の４社が共同で地元生産者らから農畜水産物等の食材を広く調達し、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社のクルーズ船へ販売することを目的とした専門商社「（株）KMI （旧：(株)KUMAMOTO・MARINE・INC）」を設立し、現在は、八代港だけではなく下関、長崎、鹿児島、那覇、広島等まで納入範囲を広げている。

クァンタム・オブ・ザ・シーズ（平成29年6月7日）への納入品

日本酒3銘柄 24本

通潤酒造(株) ソワニエローズ 6本

霊山酒蔵山村酒造(株) 白川水源 12本

瑞鷹(株) 大吟醸「金」 6本

球磨焼酎2銘柄 12本

織月酒造(株) 川辺 6本

織月酒造(株) 無言 6本

醤油1銘柄 12本

※国交省港湾局ヒアリングにより作成

写真：(株)KMIホームページ

観光ビジネスの創出

(株)KMIの主な業務内容

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社
↓発注　↑納品　↓決済
専門商社「(株)KMI」（船食会社）
↓発注　↑集荷　↓決済
地元熊本・八代の生産者ら

これまでの納入実績

酒（日本酒等）、醤油、
肉（熊本和牛※A4ランク、ラーメン用チャーシュー）
魚介類（トロ、ウニ、イクラ等の高級品、バイキング用の安い魚）
熊本県産米、冷凍麺（ラーメン、うどん）、アイスクリーム
その他一般食品等、全60アイテム以上
※食品以外では、コピー用紙や手洗い用洗剤

28

クルーズ船への地元食材の提供（沖縄県）

国土交通省

○ ｹﾞﾝﾃｨﾝ香港傘下のﾄﾞﾘｰﾑｸﾙｰｽﾞ社とJAおきなわ及びレオスポ(株)は2018年4月、ﾜｰﾙﾄﾞﾄﾞﾘｰﾑ船内で「おきなわ和牛」をはじめとする沖縄食材の販売契約に関する覚書を締結。同年8月にはｽﾀｰｸﾙｰｽﾞ社の3隻にも提供することに合意。
○ ｸﾙｰｽﾞ船寄港は観光分野だけでなく県産品の消費拡大や生産者の所得向上等、農林水産分野の振興にも大きく貢献。

おきなわ和牛

沖縄あぐ一豚

JAおきなわ

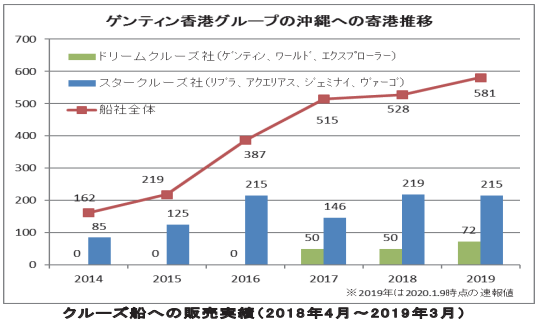
販売契約
（2018年4月にﾄﾞﾘｰﾑｸﾙｰｽﾞ社、同8月にはｽﾀｰｸﾙｰｽﾞ社と基本合意書締結）

LEOSPO ⇔ GENTING CRUISE LINES
仲介

ゴーヤ

黒糖

船内での調理・飲食イベント



2019年 ゲンティン香港グループの沖縄への寄港実績

客船名	クルーズ期間(2019年)	出発港	寄港地(港別回数内訳)	回数
ワールドドリーム	3月12日～12月25日	香港	那覇(34)、平良(24)、石垣(3)	61
スーパースターアクエリアス	1月7日～12月30日	基隆	那覇(29)、平良(37)、石垣(50)中城湾(3)	119
スーパースタージェミナイ	5月14日～11月9日	厦門	那覇(12)、平良(33)、石垣(24)、中城湾(12)	81
スーパースターヴァーゴ	1月12日～2月9日	厦門	那覇(1)、平良(6)、石垣(8)	15
エクスプローラードリーム	3月30日～12月28日	香港、天津上海、基隆	那覇(8)、平良(1)、石垣(2)	11

クルーズ船への販売実績（2018年4月～2019年3月）

食材	数量	数量	数量
おきなわ和牛	9トン	青果物	7トン
あぐ一豚肉	3.2トン	加工品（飲料・菓子類）	3,000ケース
黒糖	160ケース		

・2018年4月～10月末までの海外向け販売額：5,520万円。
（内訳　畜産物：4,438万円、加工品：681万円、青果品：401万円）
※2018/11/20　沖縄タイムス、琉球新報にて報道

29

【参考】クルーズ船に係る国土交通省の対応

国土交通省

①「ダイヤモンド・プリンセス」号への対応

船名：ダイヤモンド・プリンセス（船籍：英国）
船社：プリンセスクルーズ（本社：米国）
総トン数：115,906 トン、全長：290m
乗客：2,666名、乗員：1,045名

【横浜港入港までの経緯・対応】

○ 香港からの男性が、１月20日に横浜で乗船、１月22日に鹿児島でオプショナルツアーに参加、１月25日に香港で下船後、２月１日に新型コロナウイルスの陽性反応。

○ 同船はベトナム、台湾、那覇を経由して２月３日に横浜港内の錨地に到着し、検疫開始。

○ ２月５日から、乗客・乗員に船内にとどまっていただいているが、PCR検査陰性である等の乗客については、２月19日以降23日にかけて順次下船を実施した（計983名）。

○ また、外国人の乗客・乗員については、２月17日以降、米国等による帰国チャーター便等を利用して、下船・帰国いただく対応を実施。

○ ３月１日に、乗員・乗客約3700人全員の下船が完了。

○ ３月２５日に、横浜港の埠頭から離岸。

【国土交通省の対応】

○ 当該船舶を停泊させる錨地の確保や横浜港での着岸に関する港湾管理者（横浜市）等の**関係機関との調整**、海上保安庁による**患者や検体等の搬送**や**周辺海域の巡回**、外国人の帰国や乗客の医療センター等へ移送の際のトイレ休憩施設の確保、高速道路無料化、帰国チャーター便受入れのための関係機関との調整や発着枠・駐機場の確保等を実施。

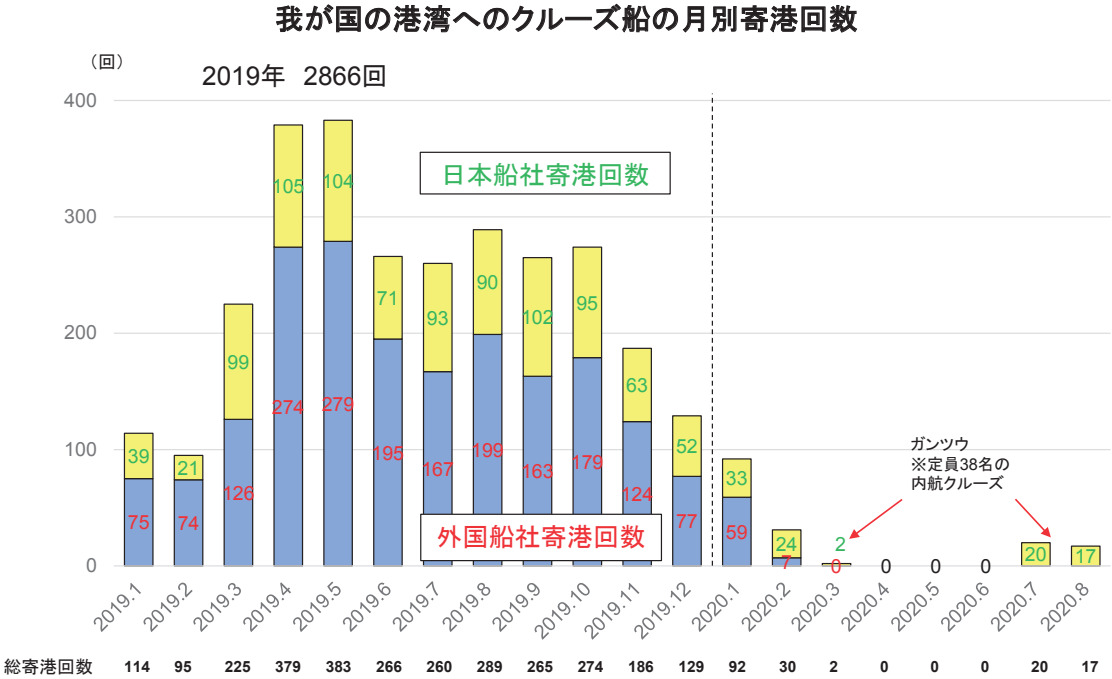
○ **運航会社の日本支店に職員をリエゾンとして派遣**し、運航会社との一層の連携を強化（２月８日から１名、12日から状況に応じ増員）。

○ 乗員・乗客の下船について、厚生労働省等の関係機関と連携し、運航船社との調整や下船後の移動手段の確保等の対応を実施。

30

我が国の港湾へのクルーズ船の寄港状況

国土交通省



※港湾管理者の聞き取りを基に国土交通省港湾局作成
※クルーズ：レジャーを目的とした船旅で宿泊を伴うもの

31

世界各地域におけるクルーズ船の運航状況・再開に向けた動き

国土交通省

北米	欧州	アジア・オセアニア
クルーズ船の運航休止状況		
○米疾病対策センターは、米国海域で**7月24日**まで乗員乗客の乗下船を禁止する「No Sail Order」発出。（**9月30日**まで延長。その後さらに**10月31日**まで再延長） ○クルーズライン国際協会（CLIA）は、会員船社による米国港湾発のクルーズを**9月15日**まで自主運休する旨、発表。 ○カナダ政府は、クルーズ船がカナダ領域で運航することを**10月末**まで禁止。 ○主要船社の状況 ・プリンセス・クルーズ(米) 2020年12月15日まで ・ロイヤル・カリビアン・インターナショナル(米) 2020年10月31日まで ・ノルウェージャン・クルーズライン(米)	○欧米大手クルーズ船社は、3月前半から自主的に営業運航を休止。 ○主要船社の状況 ・コスタ・クルーズ(伊)　9月30日まで （一部のクルーズ船を除く） ・MSCクルーズ(伊)　10月31日まで （一部のクルーズ船を除く） ・キュナード・ライン(英)　2021年3月まで ・ハパグロイド・クルーズ(独)　7月末まで （現在は特定地域居住者に限定して再開）	○主要船社の状況 ・郵船クルーズ(日)　10月31日発分まで ・商船三井客船(日)　再開時期未定 ・日本クルーズ客船(日) 10月10日発分まで ・ロイヤル・カリビアン・インターナショナル(米) 「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」 9月27日まで 「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」 10月28日まで
クルーズ船の運航再開に向けた動き		
○状況が整い次第再開予定であるが、現段階では未定。	○シードリーム(米)は、6月20日よりノルウェー発着の国内周遊クルーズを再開。 ○EUの保健当局は、域内における「クルーズ事業再開に向けた暫定ガイダンス」を6月30日に公表。 ○ポナンは、7月11日からフランス国内で運航再開。 ○MSCクルーズの「MSCグランディオーサ」は、8月16日から西地中海での運航再開。 ○コスタ・クルーズの「コスタ・デリチョーザ」は、9月6日よりイタリア国内クルーズで運航再開。	○ドリーム・クルーズの「エクスプローラー・ドリーム」は、基隆発着の台湾離島ショートクルーズを、7月26日から再開。 ○郵船クルーズの「飛鳥Ⅱ」及び商船三井客船が運航する「にっぽん丸」は、11月2日より運航再開予定。

※6月26日よりハンブルク発ノルウェークルーズで運航再開したフッティルーテンは、運行中にコロナウイルス感染者が出たため、運航を休止(再開は未定)
出典：各社公式ホームページ、各国のホームページ、ウィルヘルムセン等の資料から作成(10月1日時点)

32

「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ」の概要

国土交通省

○ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、世界中で船内感染の発生例が相次ぎ、我が国においても、横浜（ダイヤモンド・プリンセス号）及び長崎（コスタ・アトランティカ号）において、多くの乗船者が感染する事案が発生

○ 国土交通省では、クルーズ船の利用者、寄港する港湾の関係者等の安全・安心の確保に向け、感染症、危機管理等の専門家からの意見を踏まえ、関係業界によるガイドライン整備、その実効性を担保するための措置等について検討・整理

Ⅰ．ダイヤモンド・プリンセス号等事案の検証について

○船内の感染拡大について、ダイヤモンド・プリンセス号及びコスタ・アトランティカ号事案における、現時点で国土交通省が課題、教訓とする事項を整理

○再発防止に向けて、船側に求められる措置、受入港湾側の措置、国土交通省に求められる措置を整理

Ⅱ．クルーズの再開にあたって

○第一段階：第三者認証取得等準備の整ったクルーズ船と受入港から、国内のショートクルーズをトライアルとして実施【短期的措置】

○第二段階：上記トライアル結果等を踏まえ、得られた知見をガイドラインに逐次反映した上で、本格的に国内クルーズを実施【短期的措置】

○国際クルーズについては、水際対策の状況や他国の安全・安心対策との調和に留意しつつ、ガイドラインの検討等所要の準備を進める【継続検討】

Ⅲ．関係者の役割分担について

○クルーズ船の受入判断や有症者・感染者等への対応が求められる際には、クルーズ船事業者、検疫等の国の関係機関、港湾管理者や保健所等を含む地方自治体との間で、課題の把握と対応を迅速かつ適切に行える体制を構築

○万一の事態に備えて、クルーズ船の寄港に関わる関係機関間の対応訓練を実施

○国際クルーズにおける関係国、クルーズ船事業者が果たすべき役割分担のたたき台を提示【継続検討】

Ⅳ．安全・安心確保に向けた具体的措置について

○国内クルーズの再開にあたり、「船舶ガイドライン」及び「港湾ガイドライン」に盛り込むべき措置

○港湾管理者等は、クルーズ船の寄港受入に際し、船舶及び港湾ガイドラインへの適合を確認するとともに、都道府県等の衛生主管部局を含む地域の関係機関で構成される協議会等における合意を得た上でクルーズ船を受け入れる

○船内で感染者が確認された場合には、次の寄港地での陸上隔離等を実施後、速やかに下船港（発着港を基本）に向かう

Ⅴ．実効性担保のあり方について

○クルーズ船事業者（邦船社）が策定する手順書（マニュアル）の船舶ガイドラインへの適合状況について、（一財）日本海事協会（NK）が認証を行う【短期的措置】

○邦船社については、海上運送法に基づく安全管理規程に感染症対策（衛生管理規程（仮称））を追加すること、また、衛生管理規程を遵守することを義務づけ【短期的措置】

Ⅵ 国際的なルール作りを含む主導的役割のあり方

○外務省等関係機関と連携し、国際海事機関（IMO）における国際ルール作りも視野に、クルーズ船の安全確保に向けた国際的な議論を我が国が主導【継続検討】

33

クルーズを安心して楽しめる環境づくりへの取り組み

国土交通省

○ 成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日閣議決定）において、「クルーズ船と受入港の安全安心確保に係るガイドラインを2020年度を目途に策定する等、再び安心してクルーズを楽しめる環境整備を図る。」としたところ。
○ 国土交通省において、感染症や危機管理の専門家等の意見を聞きながら、関係業界が整備するガイドラインなど、クルーズの安全・安心の確保に関する検討を実施。

国土交通省におけるクルーズの安全・安心確保に係る検討・中間とりまとめ（9月18日）

日本外航客船協会ガイドライン
（国内クルーズを対象とした初版）

○乗客の事前スクリーニング
・検温、質問票　など
○船内の予防策
・マスク着用、手洗い、消毒、健康管理の徹底
・船内施設の座席数減、間隔確保
・換気の実施　など
○有症者発生時の拡大防止
・船医による診療
・船内隔離、イベント中止　など

日本港湾協会ガイドライン
（国内クルーズを対象とした上記ガイドラインに対応）

○クルーズ船の旅客や乗組員、ターミナルビルの従業者の間の感染防止
・症状のある者の入場回避、マスク着用
・列や座席の間隔確保、消毒液配置　など
○ターミナルビルの従業者の感染防止
・健康状態確認　など

船内における感染防止対策
（クルーズ船事業者）

旅客ターミナル等における感染防止対策
（港湾管理者等）

寄港地における受入体制の構築

情報共有等

寄港地の関係機関等※

クルーズ船の寄港検討

※衛生主管部局、港湾関係機関等

34